

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
Chairperson Michiyo Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031

東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001（代表）

菊の会京都八瀬研修所

〒601-1254

京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701（代表）

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



寒中お見舞い

申し上げます

尾上菊乃里こと

畑道代

お変わりもなくご健勝にお過ごしのことと存じます。

昨年、菊の会創立三十周年には一方ならずお世話になり、誠に有難うございました。

そして秋には思いがけなく（賦）ポーラ伝統文化振興賦団より「日本舞踊」の伝承、振興に対し第二十二回伝統文化ポーラ賞優秀賞を受賞する事が出来ました。

これも偏に日頃お引き立て頂きます皆様のお陰と心から感謝申し上げます。

創立三十周年たちました今年を又新たな第一歩として更なる思いで精進して参ります。

何卒変わらぬ御指導、御鞭撻を賜ります様、宜しくお願い申し上げます。



（財）ポーラ伝統文化振興財団

理事長 石山 博

重なる慶事に
お慶びを申し上げます

昨年、創立30周年の記念すべき佳節に主宰の尾上菊乃里さんが、日本舞踊の伝承と振興という功績によって、第二十二回伝統文化ポーラ賞の優秀賞に輝き受賞されました。重ね重ねの慶事に心よりお慶びを申し上げます。

これも偏に、永年に亘る尾上流師範としての古典舞踊の伝承と創作活動に加えて、民俗芸能をモチーフにした舞踊劇の創作など、舞踊界に大きな貢献をされたことが評価されたものと存じます。

特に、舞踊集団菊の会の代表として、東京と京都に約四百人という多くのお弟子さんを抱え、後継者の育成につとめられながら、年間六十回という公演をこなされてきたことには敬意を表します。

また、菊の会の活動は海外にも及び、昭和四十八年以来、二十二カ国で海外公演を行ってこられたと伺いました。これは広く世界に向かって、日

本の伝統文化を発信するということ、大変に意義深く、評価に値するものです。

昨年度の伝統文化ポーラ賞には、十一人の方々が選ばれました。尾上菊乃里さんもその中のお一人ですが、皆さん素晴らしい方々ばかりで、この方々のそれぞれ技や芸にかけるお話やお姿は、感動を呼ぶものばかりでした。

私もポーラ伝統文化振興財団も二十有余年、日本の伝統文化への支援という地味な領域で活動を続けていますが、伝統文化も分野によっては継承すること自体が難しくなっているものもあります。そういう時代だからこそ、私ども財団としても活動を通じて、貴重な文化財の保存振興の一助となればと考えています。

尾上菊乃里さんには、日本の舞踊界を支えるお一人として、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます、お祝いの挨拶といたします。

ぶとう 舞踏公演



作品に各地で喝采!

沢を皮切りに12月5日、日本青年館の千秋楽
た。

・作や、古典舞踊、民族舞踊、また舞踊選集など
ている三隅治雄氏が30周年を記念して創られ
雄亮氏による衣裳・美術、そして畑代表の渾身
開されました。

・出発をする事が出来ました。

“DOTOU HATOU BUTOU”

For the 30th Anniversary

越谷と名古屋で公演 「日本のおどり」を開催!

私がバレエという芸術の道を歩み
はじめて五十四年になりました。
バレエの世界で舞踊家の条件とい
うとまず頭に浮かぶのは、顔が美
しい、手足が長い等々の事が一般
の方々には考えられると思います。
しかし、バレエの専門家にとっては
バレエダンサーの第一条件は首の長い
事であり、勿論手足の長い事、
足のこの高い事(バレエにおいて
足のこの高さは大変重要であり
ます)等々色々ありますが・・・。
しかし或る本に書かれているよう
に「最後に顔も美しければもっと
良い」美醜の問題は最後の肉体条
件であります。なぜ首の長い事が
第一条件であるのか、それは古典バ
レエの主役は王女であり妖精達で
あります。首の長い事は王女の妖
精達の気品を表現する為の最大の
条件なのです。故オーディリー・ヘッ
パンが演じた「ローマの休日」の
映画に彼女が選ばれたのは彼女が
バレエダンサー出身であったからで
す。映画のラストシーンの謁見の彼女の
優美なしぐさ美しいお辞儀を思い
出して頂ければこの事は御理解頂
けるとおもいます。以上の様に肉
体上の条件は舞踊家にとっては当
たり前の事と私は考えるべきと思
います。では本当の条件とは何な
のでしょうか。
それは舞踊家本人自身に内蔵さ
れている資質と考えられます。そ
してそれは結果単なる踊り子と舞
踊家との分離の元となり芸術家の
誕生に結びつく事になります。そ
の内面とは深い好奇心に基づく明
日への飽きる事ない成長への渴望、
やむ事のない前進の姿勢と覚悟で
あり、過去の賞賛を払い捨てて姿
勢であります。能楽の花伝書にあ
る、若くして或る時「名人上手と
の立ち会い勝負に勝ったと観客には
めそやされた時、それは若さの華
によるものであつて本当の芸ではな
い、当人がこれで勝負に勝ったと思
つた時成長は止まる」とあります。
若き芸術家にとり夜道は永く
速いのです、しかし全てに對する
好奇心こそが暗闇の道標と成つて
くれます、そしていつの時も自己に
とつての朝焼けが近づく予感を持
ち、一步を踏み出して下さることを
期待したいと思ひます。

横井 茂

東京バレエグループ
舞踊作家協会会長
大阪芸術大学名誉教授

舞踊家の 条件

Message



鹿嶋市長
内山 俊郎
Uchiyama Toshio

「鹿嶋市ハム演」に寄せて

舞踊集団「菊の会」の公演が鹿嶋市において盛
大に開催され、私とともに多くの市民が楽しい一
時を過ごすことができました。
心に感動を与え、生活に感動と安らぎをもたら
すには、スポーツとともに、文化や芸術に身近に
接する機会があることが必要です。私の進めるま
ちづくりの住の一つにも、世界を視野に入れたさ
まざまな人と交流を進めるため、まずは自分の住
むところの歴史や文化を知り、伝えることができ、
そして相手の文化を理解できる人づくりを進める
こととしていきます。そのためには、伝統や文化に
かかわりの深い人や、芸能や芸術的な活動に携わ
る人との交流の機会、またその作品にふれる機会
の充実を図り、文化や芸術を身近に感じることの

できることが大切であると思ひます。
そのような点からも、「菊の会」の公演は時期
を得たものと、誠に感謝にたえません。「日本
のおどり」は伝統的な日本の美、日本の心を表現し
た優雅さと華麗さそして若さ溢れるおどり、又古
典的な狂言とは異なるユニークな狂言舞踊といい、
見るものにとつて新鮮な感動を与えるものでした。
そして、伝統を踏まえながらも新しい文化を育て
るといふ意気込みがひしひしと感じられました。
私も、厳しい経済財政環境から、難しい行政運
営を強いられてはいますが、菊の会の舞台に負け
ないような、エネルギーをとり組みに心掛け
たいと感じずにはいられませんでした。



東京新聞
事業局舞踊担当
宮川 淳二
Miyagawa Junji



独自のジャンルを 作った菊の会

舞踊に携わっている者としては、まことに不勉強のそしりは免れないが、私が三十年の歴史を持つ菊の会を知るようになったのは、近々五、六年前からに過ぎない。

それは東京新聞が主催する全国舞踊コンクールの邦舞部門に菊の会のメンバーが何人か初参加され、いきなり一位をはじめ上位を独占した時

六年前からに過ぎない。それは東京新聞が主催する全国舞踊コンクールの邦舞部門に菊の会のメンバーが何人か初参加され、いきなり一位をはじめ上位を独占した時

これに契機に、しばしば会の舞台を拝見する機会にも恵まれたが、この会の最大の特徴は、「舞踊劇」という、菊の会ならではのジャンルをつくり上げたことだと思ふ。

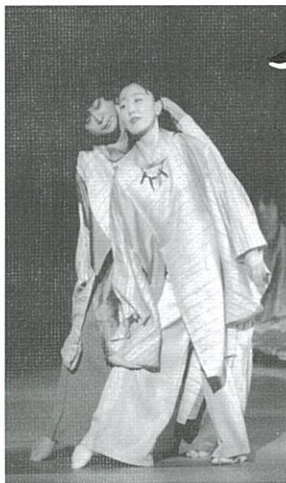
この会は上位入賞を果たして今日に育っている。これを契機に、しばしば会の舞台を拝見する機会にも恵まれたが、この会の最大の特徴は、「舞踊劇」という、菊の会ならではのジャンルをつくり上げたことだと思ふ。

である。

畑先生は「やっとコンクールに出せるような踊り手が育ってきました。」と語っておられたが、以後連続して菊の会は上位入賞を果たして今日に育っている。

畑先生は「やっとコンクールに出せるような踊り手が育ってきました。」と語っておられたが、以後連続して菊の会は上位入賞を果たして今日に育っている。

どとう ほうとう 民族舞踊詩 土踏 波踏



舞踊ならではのファンタジックな

創立30周年を締め括る自主公演『土踏・波踏・舞踏』が11月20日まで7会場13ステージが各地で開催され、好評のうちに無事終了しました。今回の作品は、菊の会が今日まで発表して参りました、数々の舞踊劇とは趣きの異なる内容で、旗揚げ当時から菊の会の作品を手掛けて下さった大作に、重厚かつ美しい田中利光氏による作曲、シンプルで斬新な三の振り付けにより、舞踊だからこそ表現できるファンタジックな世界がこの公演で2002年を爽やかに締め括り、創立40周年へ向けての新

1月2日(サンシャインホール) 起名市民ホール) 菊の会自主公演、11月29日(名古屋市民会館) 民主音楽協会主催により「日本のおどり」が開催されました。

起名にて3月に引き続き今年2回目の自主公演となり、いよいよ地元での定着を示すものとなりました。



一人立つ若武者、平和への不戦の誓いの舞いに
感動の拍手!

畑代表による「散る桜」



新春の賑わい 公演予定(1月~8月)

菊の会新春おどり初め 菊の会スタジオ
 1月12日(日) 午後1時予定 入場無料

菊の会新春に舞う「日本のおどり」入間市市民会館
 1月26日(日) 午後2時開演、入場料¥4500(全席自由)
 共催：(財)入間市振興公社・舞踊集団菊の会

菊の会新春に舞う「日本のおどり」ハーモニーホール座間
 1月29日(水) 午後2時30分、6時30分開演、入場料¥4500(全席自由)

未来を担う若者達の舞踊会「さつき会」大田区民ホールアブリコ
 5月5日(月・祝)

第29回舞踊集団 菊の会 教室発表会「日本のおどり」板橋区立文化会館
 8月9日(土)10日(日) (入場無料)

KIKUNOKAI 2002年ダイジェスト

Kikunokai News

創立30周年の昨年は菊の会にとりまして大きなエポックとなった年でした、その一年間をダイジェストで振り返ってみました。



1月 狭山市市民会館共催事業「日本のおどり」の公演に土屋義彦埼玉県知事、町田狭山市長が御出席下さり、新春早々例年を越える勢いのある出発が来ました。



2月 30周年記念公演、新作 民族舞踊詩「土踏・波踏・舞踏」が予定より八ヶ月早く実現、音楽、録音、舞台美術、衣裳、制作、振付、稽古に一ヶ月はあっという間に過ぎました。



3月 「土踏・波踏・舞踏」公演が板橋、川崎、越谷の三カ所で初演、京都八瀬でも10回公演、又この時期、鑑賞ツアーに友の会会員も多数参加して下さい京都の名所めぐりで春の京都を満喫。



4月 菊の会創立の月、埼玉県三芳町コピスの素晴らしい柿落しに出演。第20回友の会総会懇親会をセンチュリーハイアット東京で盛大に開催、NHKの看板アナウンサー葛西聖司氏の司会で。



5月 五月晴れの「こどもの日」の5日、恒例の明日を担う若い舞踊家達の「さつき会」が行われ爽やかな汗と笑顔に盛大な拍手がおくられました。



6月 清々しい初夏の緑風そよぐ6月、久方ぶりの東京アトリエ公演が3日間行われ、畑代表が新たにデザインした衣裳で「三社祭」「水仙丹前」を上演、続く「舞踊選集」と共にアトリエ公演を待ち望んで下さっていたお客様に楽しんで頂く事が出来ました。



7月 松戸市、埼玉県栗橋町、茨城県鹿嶋市で公演、「流れ」「散る桜」「身替座禅」舞踊選集「今、船出の時」を上演。



8月 18回目を迎えた恒例の「南越谷阿波踊り」に総勢57名で出場。



9月 9月1日文京シビックホールで第28回教室発表会を130演目261名の出演者で開催、今年も親子、夫婦での共演や親子孫三代の出演など活気溢れる賑やかな会となり、各地の教室の活躍ぶりが発揮されました。



9月 5回目を迎えた荒川区地域振興公社主催、荒川区共催公演の催しも初秋の恒例となり、藤澤荒川区長ご出席のもと過去最高の入場者数で、会場一杯の観客から温かい声援を頂きました。



10月 10月、秋の気配を感じながら東京で30周年の感謝を込めてアトリエ公演を開催。



11月 11月上旬深まりゆく秋のアトリエ公演を京都八瀬で開催。



12月 創立30周年記念公演、民族舞踊詩「土踏・波踏・舞踏」を11月12日と滞りなく開催、多くの方々のご支援に支えられ走り切る事が出来ました。

昨年1年、皆様の熱いご支援を頂き本当に有難うございました。

Coffee Break

Essay

「一期一会」

公演メンバー 飯田栄志

私の育った街、埼玉県三芳町に昨年4月21日、薫り高い地域文化興隆の拠点として、文化会館「コピスみよし」がオープン致しました。

小中学生から、幼馴染みの武井則男君といつも公民館で鬼剣舞や傘踊りの自習稽古をしていました。それから歳月が流れ、私は菊の会と共に新宿区西落合に引っ越しました。その後、後援会の方のお力添えで、志木市民会館で行われた菊の会公演で、町長の林孝次様と町会議員の加茂淳子様、現館長の関文雄様、そして当時の公民館の職員でいらした伊勢亀那雄様が鑑賞され、わざわざ楽屋まで訪ねて頂き、15年ぶりの再会を大変喜んで下さり、本当に感動したので覚えています。その時、文化会館の柿落しでは是非三芳町出身の二人に出演をとお話を頂きました。本当に鳥肌が立つ程、嬉しいお話でした。

そして柿落しの当日は盛大に開催記念行事が行われました。公演終了後、司会者が緞帳前に武井君と私を呼んで下さり、客席にいた家族共々街の人に紹介して下さいという思いがけない嬉しい緊張する場面があり、お客様も大変喜んで下さいました。この事は私の今までの人生で最も思い出に残るものとなりました。今でも、公演の度に林町長様が激励して下さいます。本当に感謝の思いで一杯です。

私は小学生時代に、菊の会の世界を見る機会に恵まれ、感動してこの世界に入りました。母校の藤久保中学校でも学校公演を実現出来、こんな嬉しい事はありませんでした。これからも青少年の育成の為に、良い芸能・良い芸術を見て頂ける様、努力して参ります。学校関係者の皆様の御尽力を宜しくお願い申し上げます。又、創立30周年を迎えた「舞踊集団菊の会」、その歴史に恥じぬ様、今日からは更に芸道に励み、全舞台を一期一会の思いで、感動を呼ぶ舞台を全力で創って参ります。



プロフィール 飯田栄志 Eiji Iida

1982年より畑道代に師事、菊の会の主な作品および数々の海外公演に参加、今回の「波踏」では主役に抜擢されるなど、現在若手公演メンバーのリーダーとして活躍中!